

# きれいな蜜蝋を採る方法

小規模養蜂家のために

## 1：原料

蜜蓋や無駄巣が最もよい。古い巣脾を溶かしても残渣のほうが多くて、手間のかかる割にはあまり多くの量が出ない。市販の「圧搾精蠟器」があれば便利だが高価なのでここでは使用法は紹介しない。古巣の場合は「日光精蠟器」が一番便利。巣枠が入る広さの金属製のトレイと覆いのガラス板を使って作ることもできるが、海外では市販の製品がある。

## 2：準備するもの

- ・できるだけ深い鍋（銅製が最適、アルミ製でもよいが鉄製は蠟が溶け難い）
- ・底よりも口のほうが広いプラスチック製のバケツ（溶けた蠟を流し込み、固まった後に取り出すのが、口が狭いか内側に縁取りがあるバケツは、取り出し難くなる）
- ・目の細かい布地（蠟を濾過してごみや異物を取り除くため）
- ・バケツの上にちょうどセットできる大きさの金網製のざる
- ・手の平大の目の細かい網（布または金属製、表面に浮くアクをすくい取る）
- ・水（少なくとも鍋に半分になるだけの量）
- ・バケツを覆うことのできる断熱剤（またはそれが入る特製の保温箱を手作りするか、大きめのダンボール箱をテープで目張りしてもよい）
- ・ひしゃく

## 3：蜜蝋ブロックの作り方

- 1：原料の巣片の蜜をよく切り、水洗いする。この時大きなごみも取り除いておく。
- 2：鍋をガスコンロにかけ、水（多いほど蠟がきれいになる）を張り、原料をいれる。溶解したら布でアクをすくい取り、早めに火をおとす。
- 3：バケツにざるを置いてその上に布をかぶせる。
- 4：溶けた蠟をひしゃくですくい、布地で漉しながらバケツに半分ぐらいまで注ぐ。この時滓が沈んでいる水はそのまま残して、できるだけ蠟だけをすくい取る。
- 5：別途にきれいな湯を湧かして、溶けた蠟を入れたバケツの口まで注ぎ加える。
- 6：溶けた蠟が再び短時間で固まらないように、⑦の工夫で保温しながら静置する。
- 7：翌日バケツが十分に冷えていることを確認してから固まった蠟のブロックを取り出す。ただし、まだ蠟がやわらかい状態であればさらに時間をおく。ブロックの底には滓が付着しているのでへらやハイブツールなどで削ぎとる。

#### **4 : 注意点**

- 1 : 蜜蝋は比重が軽く吹き上がりやすいので、あまり鍋いっぱいに入れないこと。  
また作業中は火のそばを離れないこと。
- 2 : 蜜蝋の融点は 62℃。必要のない強火を避け、安全に時間をかけて溶かす。
- 3 : 蝋が早く冷えて固まれば、滓や不純物はそのまま内部に閉じ込められる。  
蝋が溶けた状態の間に、微粒子状の不純物を残らず水の中に沈殿させてしまいたい。  
そのためには蝋の冷却に十分な時間をかけることが重要。この点が守られて固形化すれば、色のあざやかな蜜蝋ブロックが仕上がる。またその底の部分の滓は竹べらでも簡単に削ぎ落とすことができるほどきれいに分離する。逆に冷却が早すぎるとブロックの表面はひび割れし、底に近い部分は細かい不純物が混ざって色が黒ずむ。
- 4 : 蜜蝋は「溶解」を繰り返すほど分子が詰まり品質が低下する。例えば、巣礎製作の際、蝋の薄板を作ろうとすればひび割れが起きたりする。したがって「製蝋」はそのまま「精蝋」と考えて一度の溶解で仕上げることが大切。